

感動新聞 平成22年8月号 発行者 細川栄一

皆様、お元気ですか？ 笑顔、元気、素直、そして明るい挨拶が一番です。これからもよろしく願い申し上げます。ビジネス経営の最前線で頑張っておられる方の役に立つ情報となればと思います。喜んで頂ければ幸いです。

一倉定の「社長の器」

いい会社とか悪い会社とかはない。
あるのは、いい社長と悪い社長である。

社長の器

日経トップリーダー 8月号にこんな記事が掲載(32~35P)されていましてから、ご紹介します。表題だけ抜き出しました。有名な言葉を多くあります。社長としての「正しい姿勢」を持つことが書かれています。

電信柱が高いのも、郵便ポストが赤いのも、社長の責任である。

ワンマン経営のないところ、
真の経営などあり得ない。
ワンマン決定は権力の現れではない。
責任の現れなのである。

社長という人種は、
社員に低い給料しか与えていないのに、
社員の能力に過大な期待を持ちすぎるものである。

社長とは、
「決断業」である。

決断力のない社長は、
ほかにどんな資質を持とうと、
才能があろうと、
それだけで失格である。

優柔不断は、
誤った決定よりなお悪い。

危険を伴わない決定など、会社の将来に、たいした影響のない、次元の低い決定である。
.....部下が悲鳴をあげたり、尻込みするような決定でなければ、すぐれた決定とはいえないのだ。

会社の真の支配者は
お客様である。

ボロ会社に限って、
立派な社長室がある。

一倉定氏は1963年に経営コンサルタント稼業を始め、35年間にわたって「社長学」を教えた。いま改めて、一倉定氏の「社長学」を学び直す必要があるのではないのでしょうか？
詳細は経営合理化協会のHPより検索して下さい。